



宮司ブレス 第百八十九号

彦島八幡宮 宮司ニユース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 令和四年 七月 三日

◇宮司の柴田です。 前号の宮司ブレス発行し

た翌日が梅雨入りでしたが、今号の発行をもち
たず、瞬(またた)く間に明けてしまいました。

最速の梅雨明けでさうで、真夏を思わせるよう

な日々であります。 先人たちは、高温多湿の

夏を乗り切ろうと、暮らし方に知恵をしぼって、

工夫を凝(こ)らしてこられました。 打ち水

や風鈴(ふうりん)、暑氣払(しょきばら)いの

料理等、しかし、そのような工夫をも一瞬(い

つしゅん)にして溶(と)かしてしまふような、

炎熱です。 過日(かじつ)の六月二十九日は、

あることか、何と、下関市の六月の最高気温

を記録したようです。 「徒然草(つれづれぐ

さ)を書かれた吉田兼好(よしだ けんこう)、

兼好法師(けんこうほうし)は、「家の作りやう

は、夏をむねとすべし」と書かれました。 冬

の寒さに比べ暑さをしのぐのは難しいのです。

その高温多湿の夏を乗り切ろうという知恵と

工夫の結晶(けつしょう)が、夏越大祓(なご

しのおおはらえ)ではないでしょうか。 その

最高気温を記録した日の午後二時より、当宮

(とうぐう)の奉賛会行事委員会の世話役の皆

様が、「熱中症」さらには、「感染防止」対策を

万全(ばんぜん)にして「茅(ち)の輪(わ)」

を奉製(ほうせい)されました。 来月の三十

日まで、設置されています。

◇私共の身のまわりにおきる、ごく僅(わず)

かな不幸な出来事や、病氣や怪我(けが)は、

「罪(つみ)」や「穢(けが)れ」からもたらさ

れると考えられていました。 その「罪」や「穢

れ」を祓(はら)い清(きよ)めて、「大難(だ

いなん)」「小難(しょうなん)」「小難(し

ょうなん)」「無難(ぶなん)」に、幸せな日々

を送りたいと願ったのです。 茅の輪は、三回

くぐります。 左回り右回り、そして左回りで

す。 私は、「過去と現在、そして、未来」を

清めるために三回くぐるのではないかと思

います。 この上半期、世界ではプーチン露大統

領のウクライナ侵攻(しんこう)の暴挙(ぼう

きよ)が、東西冷戦(とうざいれいせん)の再

来(さいらい)、「民主主義対権威主義(けんい

しゅぎ)」の対決を加速させています。 コロナ

禍というパンデミックも三年目です。 「葦船

(あしふね)」のせて流してしまいたいことば

かりです。 しかしながら、私共は、「生活の変
容(へんよう)」を受け入れつつ、窮屈(きゆうくつ)
くつ)な暮らしを余儀(よぎ)なくされながら
も、生かされて生きています。 そのような中、

「過去と現在はいかえられなくても未来は変え

られる」、きつとよくなっていくという希望を

見失ってはなりません。 そのような感謝と謙

虚な気持ちを取り戻し、希望を持ち続けるのが、

三回の茅の輪くぐりではないかと思うのです。

◇日本国憲法の第十三条に幸福希求遣(ききき

うけん)が明記(めいき)されていますように、

幸せを目指すことは人類共通の権利といえる

でしょう。 京都大学の広井教授は、人類は、

拡大成長期と定常成熟(ていじょうせいじゅく)

期を繰り返してきたそうです。 人類誕生から

一万年前までの狩猟採取(しゅりようさいしゅ)

社会、一万年前から三百年前までの農耕社会

(のうこうしゃかい)でも、それぞれ、拡大成

長期と定常成熟期があったそうです。 その三

百年前からは、産業革命による拡大成長期で、

現代は、第三の定常成熟期なのだそうです。 実

は、その拡大成長期は、物的(ぶつてき)な豊

かさを目指した時代、定常成熟期は、心の豊か

さを目指した時代といえそうです。 第一の定

常成熟期では、装飾品や絵画等文化的芸術的作

品が生まれた時代に、第二の定常成熟期では、

ギリシヤ哲学や宗教などが生まれた時代と重

なるそうです。経済成長はゆるやかでも、心の成長がみられる時代といえそうです。経済成長という価値軸（かちじく）では、成長から停滞（ていたい）への転換と見えても、心の幸せから見れば、停滞から成長への転換とみなせるのです。「ないものねだり」の「拡大成長」から、感謝や謙虚の気持ちを忘れず、常に希望を持ちつづける「あるものさがし」の「定常成熟」への転換ではないでしょうか。「幸せはいつも自分の心が決める」、詩人の「相田みつを」さんの言葉です。三回の茅の輪くぐり、一回目は、「してもらっている幸せ⇨感謝の気持ち」、二回目は、「できるしあわせ⇨謙虚な心」、三回目は、「してあげる幸せ⇨希望」、三つの幸せを実感し、「幸福度（こうふくど）のスキルアップ」、幸福度を高めるのが、この「茅の輪くぐり」なのではないでしょうか。「幸福度の高い者は楽観的で視野が広い」、逆に「幸福度の低い者は、悲観的で視野が狭い」という学術研究（がくじゆつけんきゆう）結果もあるそうです。宮司プレス既刊号（きかんごう）にも記述（きじゆつ）しましたが、「悲観は気分、楽観は意志」です。幸福度を高めるといふこと、それは、すなわち、「敬神生活の実践」にはかならないのではないのでしょうか。御自愛を祈ります。

◇六月の祭典行事報告

▼月次祭 *六月一日、十五日



※神社本庁よりの辞令伝達を行いました



▼貴布禰神社月次祭 *六月一日

▼恵美須神社(海士郷町)例祭 *六月十日



▼貴布祢稻荷神社(老町)例祭 *六月十一日

▼楼門に夏越祭看板設置

*六月二十九日



▼朝粥会 *六月二十一日

※「芋かゆ」を食しました

▼大祓式 *六月三十日

◇六月の宮司動静報告

▼彦島八幡宮関係団体

□維蘇志会奉仕作業

*六月十二日

□山口県敬神婦人連合会総会

*六月十三日

□奉賛会総会 *六月二十五日

□奉賛会奉仕作業 *六月二十九日

▼山口県神社庁関係

□教化部代表者会議 *六月二日

□神職大会 *六月三日

□初任神職研修「神社本庁史」講義

*六月二十四日

□山口県八幡宮会役員会 *六月二十六日

▼自治会、学校関係、その他

□自治会クリーン作戦 *六月十二日

□自治会役員会 *六月十五日

□下関中央倫理法人会MS（会館にて開催）

*六月九日、十六日、二十三日、三十日

□西山小挨拶運動 *六月十日

□社会福祉法人松美会評議員会

*六月二十一日

□社会福祉法人あーす評議員会

*六月二十一日

▼講演活動

□山口県敬神婦人連合会 *六月十三日